

大日本スクリーン製造株式会社

2011年3月期 第1四半期 決算説明会

2010年8月10日

専務取締役 CFO 領内 修

本日のアジェンダ

- 2011年3月期 第1四半期連結業績 結果と分析
- 事業環境
- 2011年3月期 連結業績予想修正

資料取り扱い上の注意

- 本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。
- 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

1 Q 連結業績結果

2011年3月期 1Q 連結業績結果

(単位：億円)		2010年3月期				2011年3月期	
		実績				実績 1Q	4Q比 伸率
		1Q	2Q	3Q	4Q		
売上高		259	414	457	509	514	0.9%
SE		151	226	317	313	327	4.5%
FE		22	72	38	66	82	23.8%
MP	その他電子 (PE)	6	12	7	16	103	-19.5%
	画像情報処理機器 (MT)	77	101	93	111		
その他		2	1	1	1	1	-9.4%
営業利益		▲ 61	▲ 95	▲ 9	26	46	74.2%
SE						49	-
FE		▲ 50	▲ 88	▲ 4	28	6	-
MP	その他電子 (PE)					▲ 9	-
	画像情報処理機器 (MT)	▲ 9	▲ 7	▲ 5	▲ 2		
その他		▲ 1	0	0	0	0	-
経常利益		▲ 74	▲ 101	▲ 13	17	46	160.9%
純利益		▲ 25	▲ 103	5	42	38	-9.1%

2011年3月期 1Q 連結業績分析

売上高

実績 514億円 ・ 前四半期 509億円 （前四半期比：4億円増加）
（単位：億円）

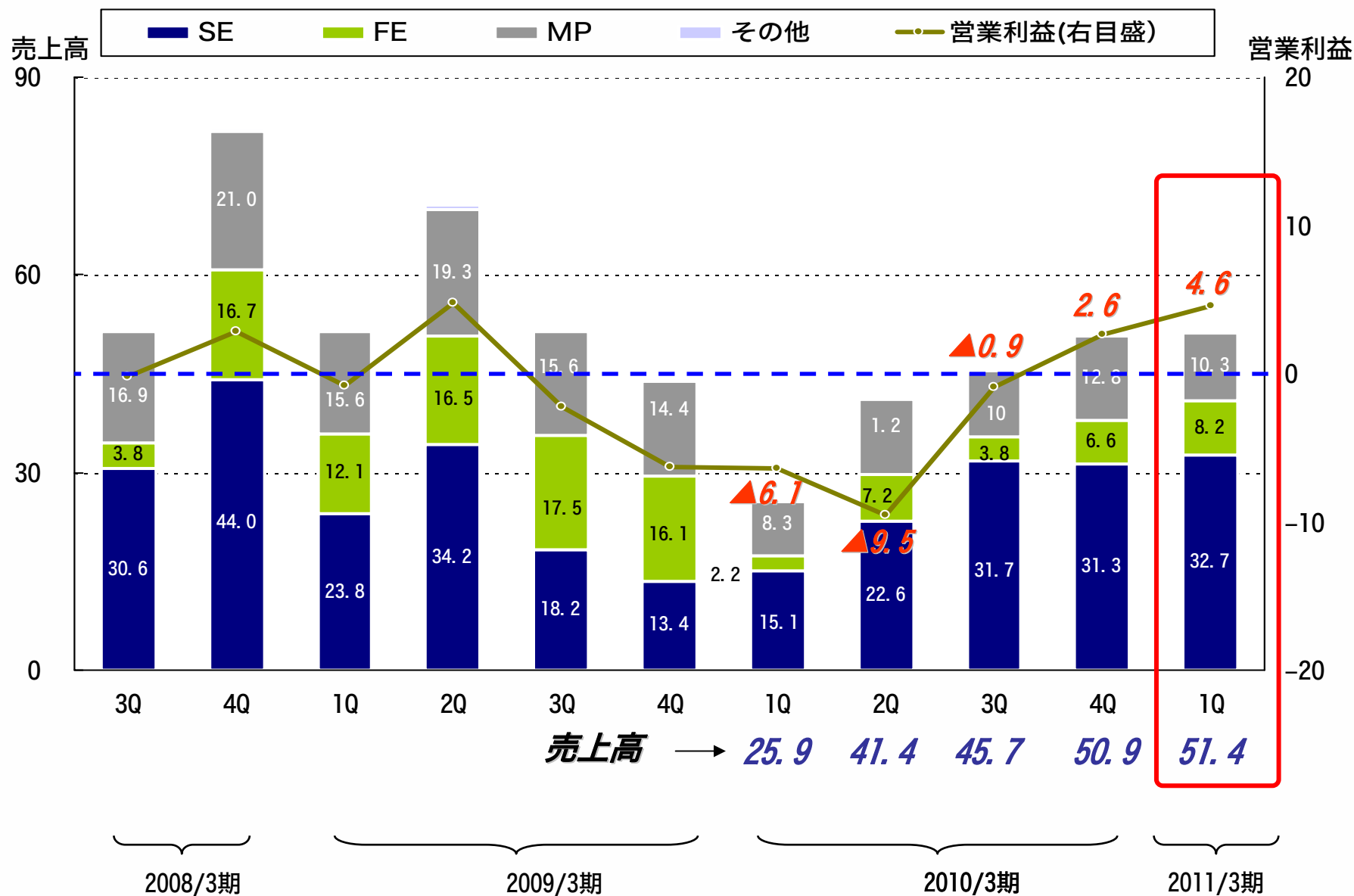
セグメント	1Q 実績	旧セグメント	4Q	差異	ポイント
		電子工業用機器	396		
SE	327	SPE	313	14	・ファンドリーを中心に総じて好調 ・SOKUDOも貢献
FE	82	FPD	66	15	・モバイル端末用などの小型パネル向けが健闘
MP	103				
PE	13	その他電子	16	▲2	・検査機は回復傾向 ・計測器も引き合いベースで良好
MT	89	画像情報処理機器	111	▲22	・CTPが回復基調も、PODは不振

営業利益

実績 46億円 ・ 前四半期 26億円 （前四半期比：19億円増加）

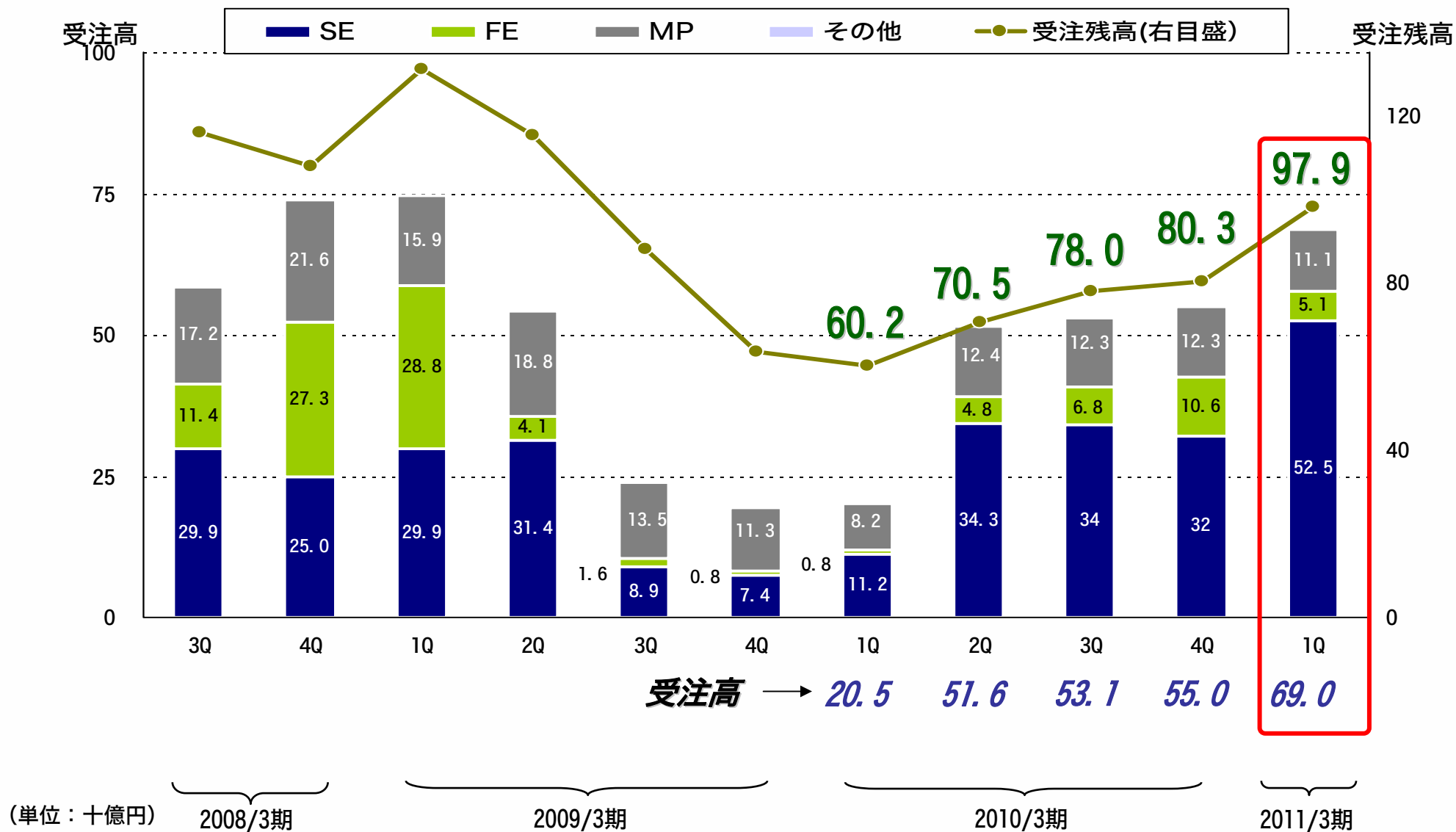
セグメント	1Q 実績	旧セグメント	4Q	差異	ポイント
		電子工業用機器	28		
SE	49	SPE	-	-	・コストダウン効果により利益率改善
FE	6	FPD	-	-	・売上増により利益増加
MP	▲9				
PE	-	その他電子	-	-	・PEはコストダウン効果で利益率改善
MT	-	画像情報処理機器	▲2	-	・MTはPODの不振により利益確保できず

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



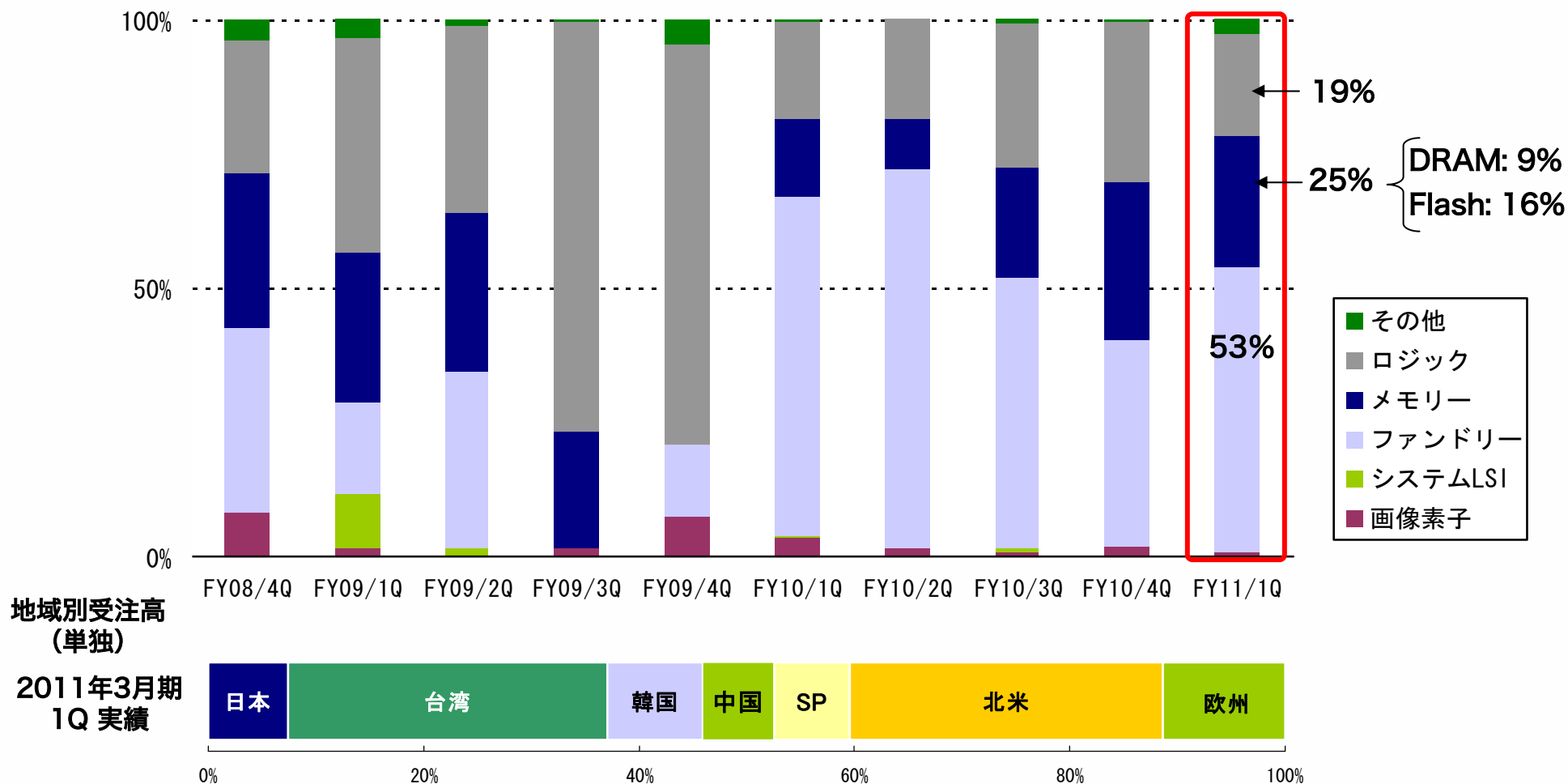
(単位：十億円)

受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



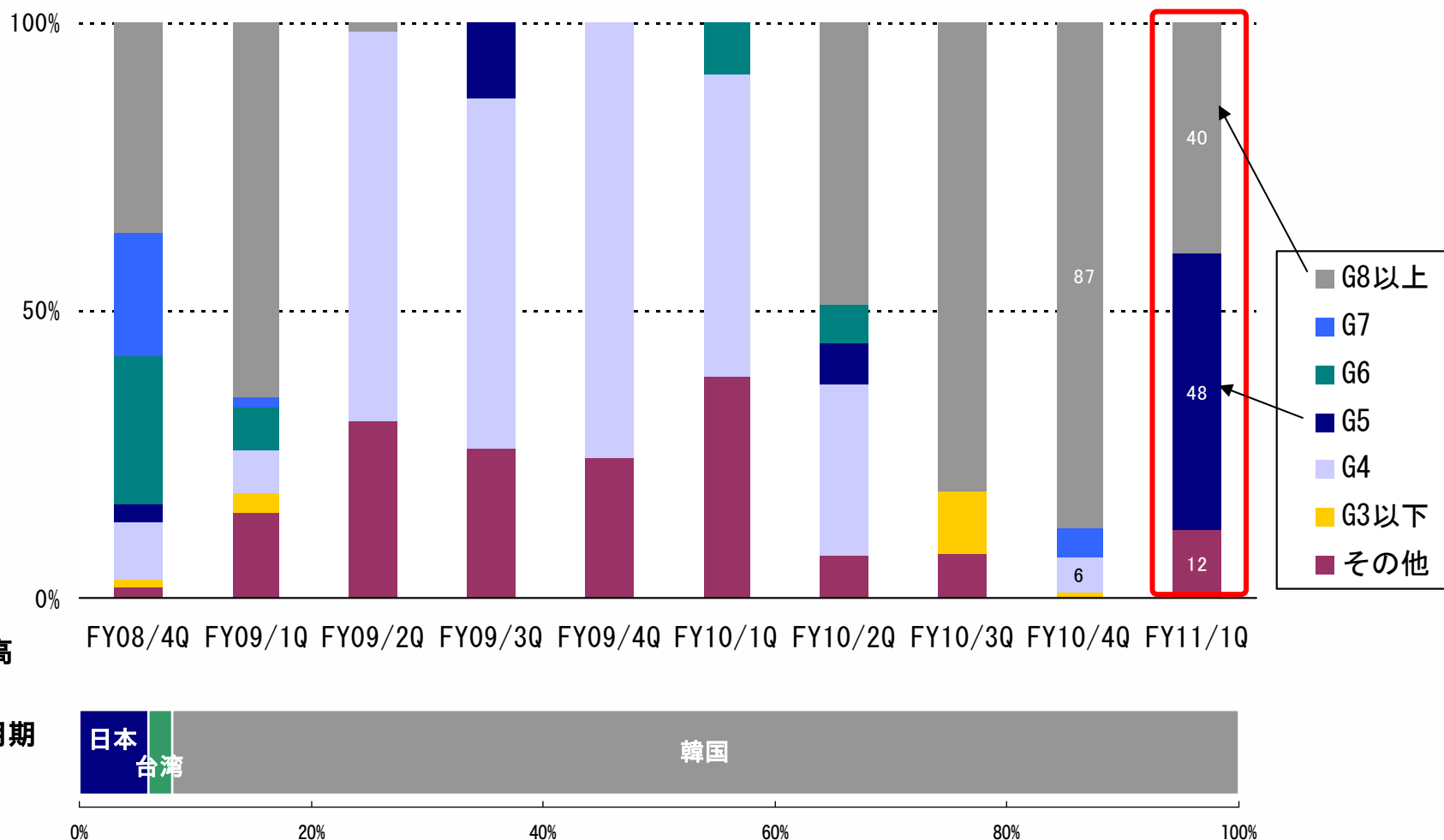
半導体製造装置 デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

> 1Qの受注高は525億円 (連結)
 > ファンドリー比率アップ



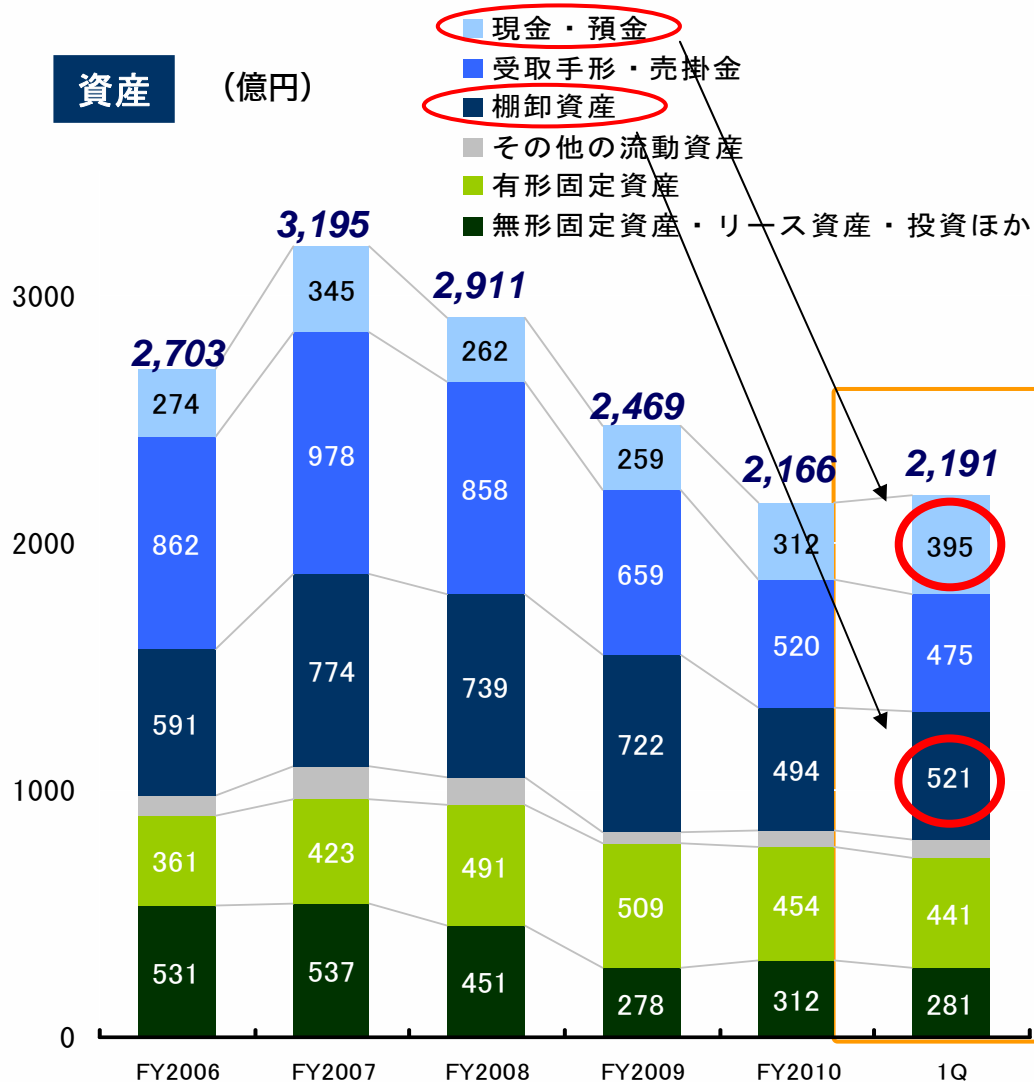
FPD製造装置 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

- ▶ 小型パネル向け装置受注比率アップ
- ▶ 製品別ではコーターデベロッパーが大半を占める

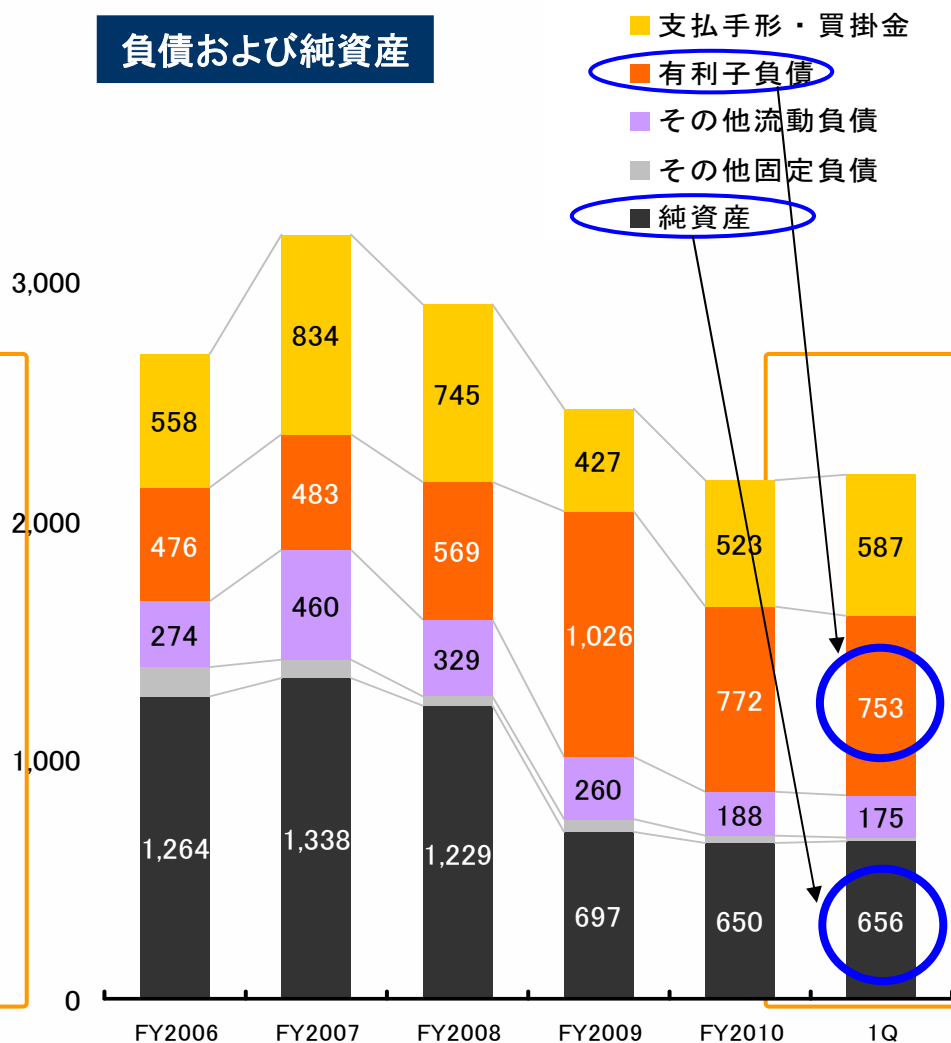


貸借対照表 (連結)

資産 (億円)



負債および純資産



自己資本比率 29.8% (2010/3) → 29.8% (2010/6)

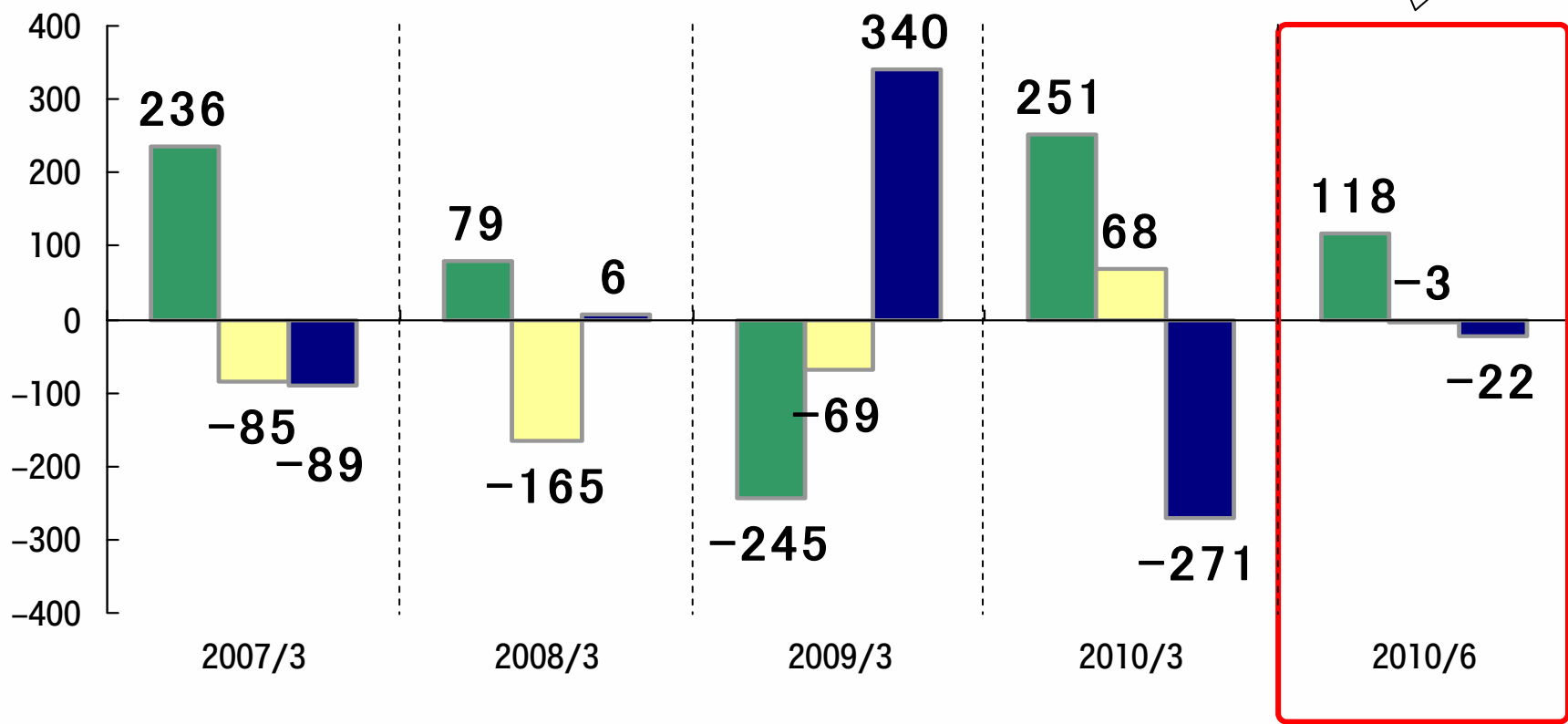
キャッシュ・フロー（連結）

フリーキャッシュ・フロー：115億円

営業CF： 118億円
 投資CF： -3億円
 財務CF： -22億円

(単位：億円)

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

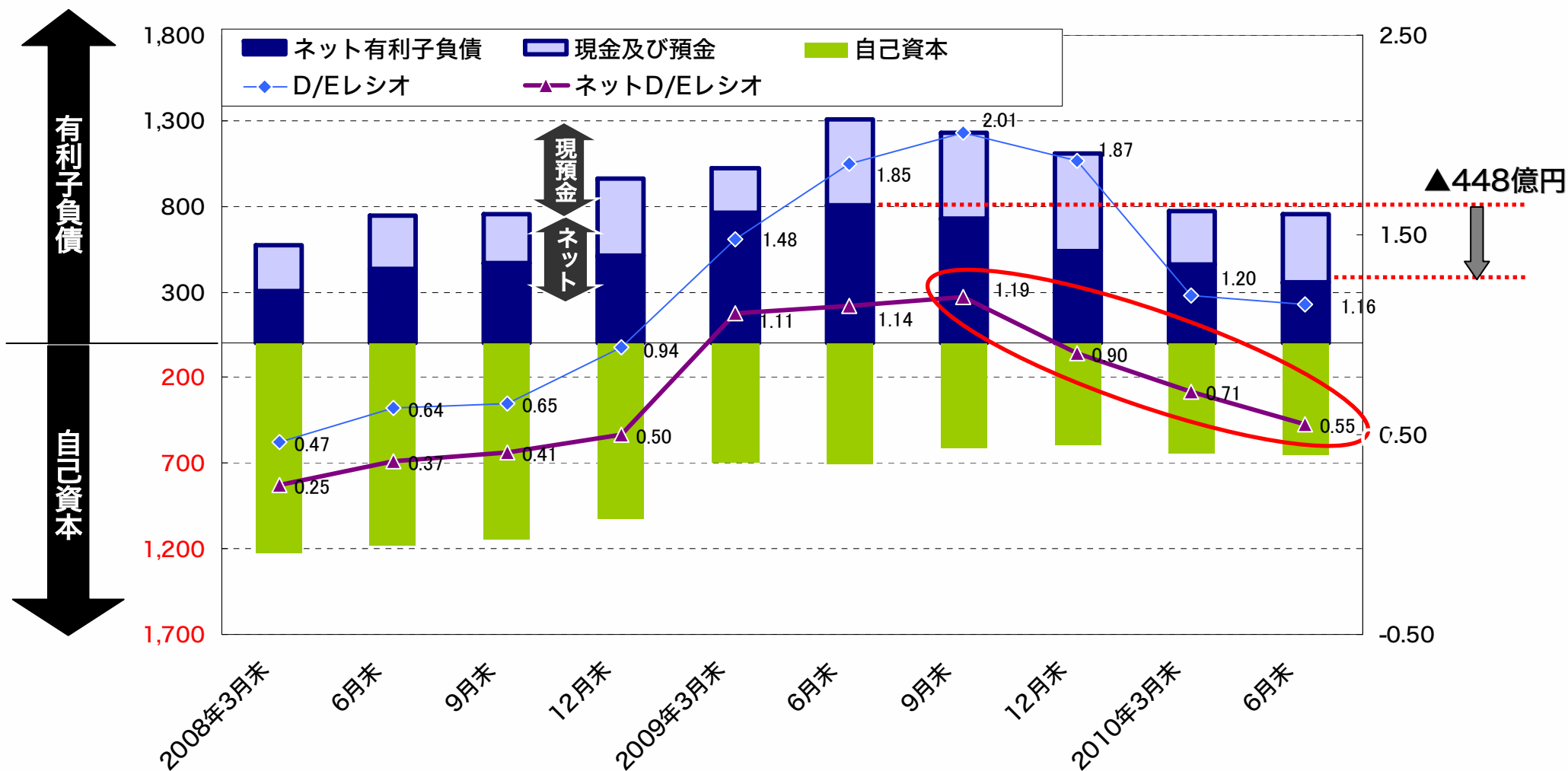


有利子負債およびD/Eレシオの推移

有利子負債
(単位：億円)

D/E レシオ

前年同期比 ネット有利子負債 448億円 圧縮 (807億円→358億円)



※2008年3月有利子負債にはリース債務を含んでおりません

再建策は継続

ただし、

SEを中心にフル稼働状態となっており、売上確保と緊急対策継続とのバランスに配慮
今後の利益動向を見ながら、緊急対策の一部解除と共に研究開発費の抑制を段階的に緩和

●2011年3月期のコストアップ要因

- 売上増加に伴う固定費増加（SE増産対応による経費増加含む）
- 緊急対策の一部解除

●継続取り組み項目

- 変動費率の改善
- 事業再編
 - ※子会社業績は大幅改善傾向
- 圧縮経費予算を継続

事業関連

SE & FE

1Q総括

【SE】

- ・ファンドリーを中心にデバイスメーカーは投資に積極的
- ・売上高・受注ともに前四半期比続伸

【FE】

- ・中国投資案件の商談継続

2Q以降の展望

【SE】

- ・モバイル通信端末の旺盛な需要が当面市場を牽引
- ・デバイスメーカーも当面積極投資を継続

【FE】

- ・中国投資案件の商談継続（中国大型案件受注見込み）
- ・インクジェットスプレー機、有機EL向けノズルプリンティング装置の受注を見込む
- ・iPhone、スマートフォン向けLTPS・OLEDへの投資に活発な動き

MP

1Q総括

【MT】

- ・先進国顧客の仕事量が安定せず、ファイナンスも付きにくい
- ・急激なユーロ安も利益面で足かせ
- ・中国、ブラジルなど新興国でCTPの出荷台数は堅調に推移したが、低価格機が中心
- ・ハイエンドCTP及びPODは不振

【PE】

- ・検査機器は、海外を中心に、売上、引き合いともに堅調
- ・露光機、計測機器も、引き合い増加傾向

2Q以降の展望

【MT】

- ・廉価なCTPは、引き続きアジアを中心に新興国が主要マーケット
- ・先進国での印刷機器投資も、ゆるやかに回復傾向
- ・PODは、新製品の投入効果が2Q以降徐々に現れ、売上は回復見込み
- ・円高傾向が続くと見込まれ、更なるコストダウンに注力

【PE】

- ・半導体市場の活況を受け、計測機器は回復傾向、2Q以降も良好な市場環境を見込む

連結業績予想修正

2011年3月期 連結業績予想修正

想定為替レート: 1\$=85yen, 1€=110yen

(単位: 億円)

(単位: 億円)	2011年3月期						2010年	
	上期		下期			通期		3月期
	5/10予想	今回予想	5/10予想	今回予想		5/10予想	今回予想	実績
売上高	1,050	1,140	1,090	1,460		2,140	2,600	1,641
SE	646	733	674	1,042		1,320	1,775	1,009
FE	170	179	180	176		350	355	198
MP	33	225	32	239	36	65	464	75
	198		186		201	203		
PE								
MT								
その他	3	3	3	3		6	6	5
営業利益	50	85	60	110		110	195	▲140
経常利益	45	80	55	105		100	185	▲172
当期純利益	40	67	50	98		90	165	▲80

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

事業関連

<SEセグメント>

- ・ 最終アプリケーションの需要が市場を牽引
- ・ 受注環境は2011年にかけて堅調に推移

<FEセグメント>

- ・ 引き続き中国案件の受注及び新ビジネス領域の確保に注力

<MPセグメント>

- ・ POD製品の販促・販路拡大に注力
- ・ 更なるコストダウンを強力に推進

経営課題

- ・ 変動費率の改善と事業再編
- ・ 製品競争力の強化による 利益率向上
- ・ 財務基盤の強化
- ・ 新たな成長戦略の策定